

### 3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・冬の天候には本当に苦勞したが、3月に入って春めいた日には大きな伸びを見せている。これからは雨が大変だが、雪に比べたら大分楽であり、良くなる。
		コンビニ（経営者）	・行楽シーズンの到来や、近隣の遊具施設の増設に伴い、確実に客数が増えてやや良くなる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・東日本大震災から1年がたち、観光客など平年の人出が期待できるため、やや良くなる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・季節商材、エアコン等の販売に期待ができる。また、太陽光発電の補助金等が新年度で出てきているため、それにも期待ができる。
		百貨店（営業担当）	・気温上昇に伴って春物の動きが活発になり、やや良くなる。
		百貨店（店長）	・徐々に売上が上向いているため、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・今までの経験上からもそうであるが、これからますます気温が上昇するなかで、季節的にも当業界は来客が見込める。
		コンビニ（経営者）	・気温の上昇と共に出掛ける人が多くなり、少し良くなる。
		衣料品専門店（統括）	・一般的日用品については、どうしても郊外ショッピングセンターに行ってしまう客が多いようである。中心街の元気が出ることはまだ先かと考えるが、春になって地域の催事や祭等が徐々に各地区で始まる。専門店で扱うような、特に祭用品等については幾らか販売量が増えてきているため、やや良くなる。
		家電量販店（店長）	・映像関連で期待が持てる話題として、ロンドンオリンピックがある。7月27日開催に向けた記録メディア商材、テレビの大型買換え需要やブルーレイレコーダーなどに人気が出そうであり、やや良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金の実施で販売台数が伸び、順調に推移しているため、やや良くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・販売も1～3月は徐々に良くなってきているので、4～6月もこのままの状態が続く。販売台数だけでなく、来客数も前年の倍近くと、かなりの数があるため、やや良くなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（従業員）	・今よりは悪くならない。
		一般レストラン（経営者）	・諸条件が悪いのであまり期待はできないものの、春を迎えて人が動き出し、やや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・東日本大震災から1年がたち、少しずつ客の消費動向が上向きになってきている。同業者からも少しずつ売上が伸びているという話を聞くため、やや良くなる。
		観光型ホテル（営業担当）	・当観光地も冬のクローズ期間が終了し、いよいよ来月オープンする。今シーズンは何かと追い風もあることから、来客数増を期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・前年は東日本大震災の影響が非常に大きく、当社もキャンセル等いろいろあって非常に大変な時期があった。今年はそういったことはないと思うが、それほど景気が良くなるとはまず考えられない。それほど早く伸びる予定はないが、多少は良くなるかもしれない。
		旅行代理店（経営者）	・特にないが、徐々に暖かくなって人が動くので、これから消費が伸びる。
		旅行代理店（所長）	・依然として収束しない福島原子力発電所の事故や、昨今問題になっている電気料金の値上げなどが心配だが、東京スカイツリーの開業を5月に控えて、スカイツリーと絡めたツアー客の予約が増えてきているようである。さらには、学生の修学旅行や林間学校もこれから始まり、一般、学生、インバウンドの来訪に大きな期待感がある。
		旅行代理店（営業担当）	・徐々に気候が良くなって旅行シーズンを迎えたり、5月には東京スカイツリーが開業するため、客の出足を期待している。
タクシー運転手	・円安、株価、復興、スカイツリー開業とマインドの面でプラス要素が多いため、やや良くなる。		
通信会社（経営者）	・一般中小企業からの受注は見込めないが、年度末の見積を考えると、年度明けの受注はやや多くなる。		
通信会社（販売担当）	・原油高や電気料金の値上げが不安なため、まだ先行きは不透明であるが、円高がある程度落ち着いてきたことや、消費税の増税をにらんだ駆け込み需要が増えることから、景気はやや回復する。		

	ゴルフ場（副支配人）	・3月からオープンしたと同時に、ほぼ毎週のように土日に雪が降ってクローズになっているが、3か月過ぎるといわゆるトップシーズンに入ってくるため、来場者数も当然増えていく。
	ゴルフ場（支配人）	・大手同業他社の倒産問題発生後、会員権の償還問い合わせが多くなっている。また、企画コンペや割引客の来場比率が高いが、4、5月の予約は順調に伸びている。
変わらない	商店街（代表者）	・春になってスポーツの季節になってきたので、今の景気はしばらく続く。秋になると悪くなる毎年のパターンであり、今年も何とかいけそうである。
	商店街（代表者）	・歴史的な円高からやや緩やかに元に戻りつつあると報じられているが、この先、地方の零細企業まで好転してくるのはいつになるのか。
	商店街（代表者）	・季節行事で新たな遠足の記念撮影の注文が入ったが、一般の記念撮影の注文が入ってこないため、変わらない。
	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・花も開花が間近になり、暖かくなって人の動きも出始めれば良くなってくとも思うが、消費税増税の議論や電気料金の値上げなど、足を引っ張る材料があるため、変わらない。
	一般小売店〔家電〕（経営者）	・夏商戦に向けて早期に季節商材を売り込みたいところだが、必要に迫らないと消費者は動かない。前年のように猛暑でも来れば商品全般の売上が期待できるが、どうやって消費者に購買意欲を出させるかが難しい。
	百貨店（販売促進担当）	・増税議論の本格化やガソリン価格の値上げ等、購買行動の抑制が予想され、不要不急品の購入を控える動きは更に顕著になる。
	百貨店（販売促進担当）	・需要の喚起を促すための施策は行っており、その都度少しずつ売上に反応が出ているが、継続した売上には結び付かず散発で終わっている感がある。今後も今と変わらない状況が続く。
	百貨店（店長）	・消費税増税の議論や電気の問題を始めとして、政治経済はまだ混迷を極めているため、変わらない。
	スーパー（店長）	・過去3か月変わらないので、このまま変化はない。
	スーパー（総務担当）	・円高の修正や株価の上昇が見えるが、まだまだ低い状態である。小売業では、企業より客の収入が増える状況にならないと回復しないため、変わらない。
	スーパー（統括）	・為替や株価の動きも底打ち感が出て、客数が堅調に伸びるなど、景況感の見通しに明るい兆しが出てきている。ただし、電気料金的大幅値上げ、ガソリン価格の値上げなど、消費マインドを減退させる要素が景気回復にブレーキを掛けることも懸念される。
	コンビニ（店長）	・客単価は特別変わっていないため、あとは客数だけ上がってくれば良いという形である。客数は若干戻りつつあるような気がするが、現在とそれほど変わらない。
	コンビニ（店長）	・元気がなくて困っている。近隣の24時間営業の安いスーパーが閉店したが、当店への影響は全くない。街中の商店街がますます寂れていくのを感じる状況は変わらない。
	衣料品専門店（販売担当）	・今までの悪過ぎで、今月と比較しても先行きは何か良い材料がない。この春の陽気に誘われて出てきた客たちの意識がそのまま続けばいいが、残念ながら取り巻く環境はあまり良い材料はないため、それほど期待できない。ただし、今月後半は幾分良くなってきたような雰囲気なので、希望的観測を含めて、それが今後も変わらない状況で移行して欲しい。
	乗用車販売店（統括）	・自動車販売業界はエコカー補助金終了までは良い状態が変わらない。
	乗用車販売店（販売担当）	・2、3月は恐らく特別な月であった。今後4～6月の観光シーズンを控えて、観光客が当地域の観光地に戻ってきてくれるかが大きな鍵となる。当地区は風評被害がまだまだ残っていて観光客数が減っているため、ホテル、売店、物産展関係の売上が落ちてきている。そのため、新車等の売行きは恐らくそれほど良くなる。それほど良くなる要素がないため、ほぼこのまま変わらない状況である。
乗用車販売店（営業担当）	・3月は過去の販売台数、保有台数が多く、販売、サービス共に少し活気があったが、先行きはそれほど数字が上がらない。	
住関連専門店（統括）	・消費税、電気料金、年金等の不安材料が多く、消費控えが生じる可能性もある。	
住関連専門店（仕入担当）	・前年は東日本大震災後の特需があり、デフレの対応も含めて埋め切れていない。	
一般レストラン（経営者）	・宴会予約等は月後半にかけて良いものの、うなぎ等を仕入価格の高騰によって値上げした影響がどう出るか、先行きは不安である。	

一般レストラン（経営者）	・消費税増税の議論や政治の不透明さなど、プラス要因があまり見当たらない。
スナック（経営者）	・もう今はどん底で、これ以上悪くならずに変わらないようにという要望である。日本全体が今大変である。何とかここを切り抜けたと思うが、本当に何か良い話があったら教えて欲しい。
観光型ホテル（経営者）	・福島第一原子力発電所の事故の取次次第で情勢が大きく変わるため、今の時点では何とも言えない。
都市型ホテル（営業担当）	・4月は3月に引き続き、人の移動や会社の人事異動があるため、それに伴い新人研修等があり、ホテルの需要が増えるかもしれない。5月はゴールデンウィークなどがある。観光地は別だが、ビジネス系のホテルについては逆に稼働が上がるといことで、上がったたり下がったりで、ほぼ変わらない。
旅行代理店（従業員）	・変わるような要因が見当たらない。
旅行代理店（副支店長）	・現状同様、販売量は伸びていないと思うため、変わらない。
旅行代理店（副支店長）	・前年のこの時期は東日本大震災でほとんどキャンセルになったことを考えると、現状は受注も前々年とほぼ同じ程度だが、前々年に戻っただけで景気が良くなるとは言えない。むしろ消費税増税の議論や為替変動、燃料価格高騰の影響がこの先大きく出てくる。
タクシー（経営者）	・不景気感があるため、この先も変わらない。
通信会社（経営者）	・家庭用LPガスの販売もしているが、中東情勢の不安から原油価格の高止まりが続いているなか、特にLPガスは独歩高といえるほど記録的な高騰が続いている。イスラエル、イランの問題の早期解決が難しいとなると、円安も進むなか、更に厳しい状況に陥る可能性もある。
通信会社（総務担当）	・個人消費の低迷が続く。
通信会社（局長）	・家計の出費はできるだけ抑えたいという考えが依然として根強く見られる。将来への不安が拭えなかったり、節約志向が高まったりしている。
テーマパーク（職員）	・観光シーズンに入るものの、風評被害が払しょくされないことから、良くなるとは思にくい。
遊園地（職員）	・東日本大震災が発生して1年がたち、回復テンポが緩やかになってきているため、今後の景気はあまり変わらない。
ゴルフ場（業務担当）	・今月は毎週土曜が悪天候のため、来場者がその分だけ減少している。総体的な売上も出ず、土日の単価が出ていないため、売上は鈍化している。向こう2、3か月、特にゴールデンウィークの取り込みが今のところ鈍っており、例年よりもやや少なめな状況で進んでいる。土日の取り込みは徐々に伸びつつあるが、なかなか厳しい。平日については間隙にならないと予約が入ってこないため、囲い込みに苦労している。安い料金等のプランについては飛び付くが、パーティ等いろいろ取り込んだプランについては、なかなか出だしが鈍っている。
競輪場（職員）	・本場開催分の売上がなかなか伸びない状況にあり、先行きも変わらない。
その他レジャー施設 〔アミューズメント〕 （職員）	・少しずつ景気が良くなる傾向にはなっているが、これから取り立てて大きく変化することは少ない。特に客が楽しむようなアミューズメント系は、ある程度家計の中では最後のほうにくるため、支出のウエイトはそれほど上がりもしないが、逆に落とすほど大きいものでもないため、この少し良くなる傾向がこのまま、ある程度は続いていく。
美容室（経営者）	・4月以降、電気料金、燃料費の値上げ、年金の減額等、いろいろな悪くなる要素が出てきている状況なので、これから先は不安である。景気が良くなることは難しく、現状維持あるいはマイナスである。
その他サービス〔清掃〕（所長）	・就職、ゴールデンウィークなど消費の期待が持てる部分もあるが、消費税や年金の問題など消費動向が鈍ることが多く、景気回復の期待はできない。
設計事務所（経営者）	・電気料金の値上げ等、企業への負担は大きくなり、良くなると思えない。
設計事務所（所長）	・今月は決算時期で新規物件も増えたが、まだまだ厳しい状況なので安心はできない。今後もこの状況を維持できるように、いろいろとイベントなど考えていく必要がある。
設計事務所（所長）	・この先2、3か月の間に景気が上向くとは感じない。一部の輸出関連企業は円安傾向による好転が期待できるが、多くの零細企業までは期待できない。一般消費者の心理は、消費に消極的な思いが強く、景気的好転にはいまだ時間が掛かる。

		設計事務所 (所長)	・クライアントからの問い合わせは少しずつ増えてきているが、実現化するにはもう少し時間が掛かりそうである。
やや悪くなる		商店街 (代表者)	・4月1日からの電気料金値上げ、増税の懸念、年金問題など、不安要素が増加している。
		一般小売店 [衣料] (経営者)	・自然的に新芽が出たり花が咲くなどいろいろな要素が入ってくるため、多少良くなると思うが、現状では良くなるような要素は全くない。
		一般小売店 [青果] (店長)	・4月1日から食品に含まれる放射性物質基準の厳格化により、当市近辺の山の幸、たけのこなど、数多くの品物が売れなくなると思う。地物が魅力のある商品だったので、ますます大変なことになる。
		百貨店 (総務担当)	・来客数が年々減少しているなか、売上につながる新アイテムが少ない。このところ消費税増税の議論といった話題が多くなり、ますます当店への来客、特に年齢層の高い客の購買意欲がなくなってきて、売上が減少する。
		スーパー (店長)	・前年は祭事などを自粛していた時期なので、そこにはチャンスがあると思うが、東日本大震災の特需が一番あった時期になってくるため、これから厳しくなる。
		コンビニ (経営者)	・前年10月以降、競合店の出店が相次いでいる。今年も5月以降にまた1店出店があるため、今後の景気は少しずつ悪くなっていく。
		衣料品専門店 (店長)	・原油価格の高騰により、各商品の値上がりが懸念され、消費を抑える傾向が強くなるため、やや悪くなる。
		乗用車販売店 (経営者)	・4月以降は車検の対象台数が少なくなるため、やや悪くなる。
		自動車備品販売店 (経営者)	・エコカー減税の終了やいろいろな法制度の変化が生じ、購買が一時低下する時期が4、5月に来る。平常に戻るまでには2、3か月掛かる。
		高級レストラン (店長)	・閉店する店や空き店舗が多くなってきているため、やや悪くなる。
		スナック (経営者)	・不景気なニュースばかりが多すぎる。何でもいから、元気になるような話をもっと出てきて欲しい。
		都市型ホテル (経営者)	・増税、値上げの影響で庶民の財布のひもは固くなる。
		都市型ホテル (支配人)	・当地域で行われる大会など大きなイベントで、風評被害の影響でキャンセルや参加人数が少なくなっている。ここ2、3か月の予約状況は例年より悪くなっている。
	悪くなる		美容室 (経営者)
		その他サービス [立体駐車場] (従業員)	・例年だと3、4月は異動の時期で、それに合わせて定期券の契約並びに解約を含めた移動がある。現状は通常の6割くらいでの申込状況で、解約はほぼ横ばいで同じと、伸びがないため、やや悪くなる。
		住宅販売会社 (従業員)	・電気料金、ガソリン、灯油価格など、生活関連費用の増加によって慎重な消費姿勢のため、やや悪くなる。
		住宅販売会社 (経営者)	・需給のバランスで地価も上昇するのが普通だが、地価は下落傾向でデフレも解消されない状態では、当業界は停滞する。動きがない以上、悪くなるとしか言いようがない。
		住宅販売会社 (従業員)	・期末の動きが一段落したあと、4月の立ち上がりが鍵を握る。原油価格の高騰がエネルギー単価に影響を与えるような事態になると、企業の生産計画等に支障が出てくる。
		一般小売店 [乳業] (経営者)	・消費税増税の議論、ガソリン価格の高騰等、消費意欲を抑える話題が世間を騒がしているなか、消費意欲を高める話題は皆無に等しい。
		スーパー (経営者)	・近隣の製造業を中心としたリストラの進行により、消費マインドが更に悪化していく。
企業動向関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	食料品製造業 (営業統括)	・最近では円安の安定化、株価の1万円突破と、景気も徐々に回復傾向となっている。これから行楽シーズンに入り、消費者の購買意欲も回復してくる。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・体験工房の新規契約もあり、シーズンインによる売上も多少見込まれ、動向に期待感がある。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・新型スポーツカー向け部品の受注が好調で、フル生産での対応を予定している。また、今年の年明けから落ちていた建設機械、油圧機器関連の仕事も徐々に回復が予想されており、東日本大震災の復興対応の動きも更に出てくる。

	金融業（役員）	・車、ディーラー関係の販売についてはエコカー減税などがあるため、かなり増産体制で売上が上がることは可能だが、それ以外の小売や卸関係は、利幅が相当少なくなっており、大変な業況である。まだ3月の数字が出ていないので分からないが、東日本大震災等の影響で特需があるなど、上向くと客も推測しているため、若干良くなる。
	金融業（経営企画担当）	・観光業がシーズンに入る。また、新年度で購買意欲が増すため、やや良くなる。
変わらない	食料品製造業（経営者）	・原油価格の上昇や電気料金の値上げが今後どう影響するのか不透明である。
	化学工業（経営者）	・この数年は景気が悪かったため工業用の部署では人を大幅に減らしてきたが、9月までかなりの注文が入ってきたため人手不足になり、フル生産の体制になっている。しかし、半導体関連では3月から大幅の受注減となり、4月からは最悪になりそうである。
	金属製品製造業（経営者）	・現在よりもこれ以上良くなるという話は全くなく、先行きは不透明であり、不安である。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・当社は部品加工をしているが、特別に量が増えたようにも思えないため、先行きも変わらない。
	電気機械器具製造業（経営者）	・客先からの4月以降の製造日程予定表によると、現状と変わらない推移になっている。
	電気機械器具製造業（経営者）	・安定した仕事が入り、しばらくは受注が見込める。
	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の様子では、年度が明けても新規の立ち上げ又は販売の拡張などはないため、2、3か月は低空飛行が続く。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・前年より4、5か月はずっと良い状況で変わらずきているため、このまま取引先、受注量、販売量は変わらずに2、3か月は続く。取引先が10社くらいあるため、1、2社が落ちても他の取引先でカバーできる状況であり、ほとんど変わらない。
	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・来月以降は行政向けがメンテナンス込みのリースで9月まで予定がほぼ埋まっているため、良い状態は変わらない。
	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・4月は催事の季節なので多少期待感を持っているが、現状からは売上の大きな伸びは期待できそうもない。
	輸送業（営業担当）	・防災、震災備え等の商材の動きが良い状況であり、物量も増えている。また、5月の金環日食等の商材も物量が増えている。今後、夏場に向けて扇風機等、節電グッズとして今年も節約家電が伸びる予定だが、例年ほどではない。また、現状の燃料高によるコストもあり、また大手の値上げ、電気料金の値上げ、コスト見直しもあり、厳しい状況にはなる。
	通信業（経営者）	・景気はなべ底状態で、一向に上向く気配がない。
	広告代理店（営業担当）	・商機の変化は乏しいが、こまめに営業活動していると案件が見つかる。ただし、受注単価は若干の下落傾向があり、販売促進広告については変わらない。
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・中小企業、小売店などに聞くと、もうしばらく様子を見ないと判断できないとの返答が多く、見通す材料が見つからないとの話である。
	社会保険労務士	・まだ残業するほどは忙しくなく、所得が増えていないなか、原油価格の高騰が進むと影響が出てくる。
	経営コンサルタント	・3月までの季節要因による余波でそこその上向き傾向はあるかもしれないが、景気を持続的に押し上げる消費マインドの上昇次第と言える。
	司法書士	・どう見ても、良くなると考えられる材料がない。
その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合い、受注量から推測すると、改善の兆しが出てきつつある。まだ弱含みであるが、変化は見られる。	
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・仕事は忙しいことは忙しいが、やはり見積にかけられ、少しでも値段の安いほうとなることが多い。
	一般機械器具製造業（経営者）	・4月以降の受注量は現在計画中で、不透明な点が多く立案困難を極めているが、漸減の傾向にある。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・民間の設備投資が非常に少ないなか、公共工事も計画段階で、発注される時期も先になるそうだし、先行きの見通しが非常に不透明になっている。
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主力自動車メーカーからのコストダウン要請は3月で決着したことが非常に大きいですが、4月以降については今度は電気料金、ガス料金の価格転嫁が思うようにいかない。受注の水準は高いが収益は大幅に減少するため、非常に困った問題である。特に関西系企業との電気格差がこれからますます大きくなっていくため、取引についてはコスト転嫁が一つのポイントになってくる。

		不動産業（経営者）	・雇用条件の改善、雇用の創出がなされ、税を払える層を厚くしない限り、経済活動の停滞は必至であるが、何も有効な布石がなされていない。資源を必要としない産業に対してどれほど冷淡な態度が示されているかを目の当たりにしていると、将来に対して不安を通り越して怖れすら感じる。
悪くなる		食料品製造業（製造担当）	・商品原価に灯油などの値上げ分を乗せられず、特に製造、配送コストが経営を相当圧迫してくる。また、買い控えなどで景気はますます悪くなる。
		建設業（総務担当）	・公共工事主体で土木、舗装工事を行っているが、今後発注が少なくなる時期なので、新規得意先の確保が急務である。ひとえに営業に注がなければならないが、同業他社も同じ状況なので、営業努力をするのみである。
		不動産業（管理担当）	・維持管理の面で、管理会社やオーナーから一律に管理費を削減して欲しいという依頼がある。一律で削減されると当方も利益の幅を減らすしかないため、その点で利益を減らしても仕事を取るのか、それとも仕事自体を受けられない形になるのかという判断を迫られている状況が多い。売上や利益の減少の可能性が非常に高い。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	—	—
		人材派遣会社（経営者）	・小売販売等の募集の傾向が多く見られる。サービス部門ではどちらかというと介護関係、その他のものが見られ、住宅関連では少し活発さが見られる。転勤、異動、進学等での運送関係でも動きが見られるため、やや良くなる。
		人材派遣会社（経営者）	・このところ仕事が増え、売上も上がり、会社も少し良いため、やや良くなる。
		人材派遣会社（営業担当）	・円安の時代で地域の輸出関連産業が好調に推移するため、やや良くなる。
		職業安定所（職員）	・求職者数は少し増えているが求人数がそれを上回り、企業の動向がやや良くなってきているのではないかと思うため、やや良くなる。
変わらない		職業安定所（職員）	・雇用につながる明るい要素が見当たらないため、このままの状態がまだ続く。
		職業安定所（職員）	・最近の求人数は比較的多い水準で推移している。特にサービス業やこれまで少なかった情報処理関係での求人が少しだけ多くなっているが、企業のヒアリングなどを見ると、円高に対する懸念がやはり非常に残っており、先行きは少し不透明であるという回答が非常に多い。また、一部の業種で離職者が出るなど、やや安定していないようにも見られるため、先行きはどうか分からない部分が非常に多い。
		職業安定所（職員）	・円高などが大きく影響し、自動車関連や半導体関連などの製造職求人が増えていないため、求職者とのミスマッチは続いており、景気回復は期待できない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・自動車業界に堅調さが見られるものの、他の大手製造業では期末で相当数の開発、設計関係の派遣技術者を契約終了とし、求職者が混乱している。4月は新卒者の入社で求人は期待できず、しばらくは難しい状況が続く。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・新学年の新規求人数も相変わらず少ない。求人企業として将来を見越した求人活動を行えている企業は少ない。平成24年度も厳しい就職活動が予想される。
やや悪くなる		人材派遣会社（管理担当）	・新年度4月の状況は、東日本大震災の影響が無くなり、通常の生産、稼働となるため、やや悪くなる。
		職業安定所（職員）	・今月は多少の就職者増も見られるが、今後も管内で会社都合の離職が大量に出るため、求職者が滞留し、景気は下降する。
悪くなる		○	○